

## 終刊の辞

名古屋外国語大学に現代国際学部が設置された2004年4月以来、『現代国際学部紀要』は、本学の発展とともに着実に巻を重ねてきたが、本号をもって終刊となる。この決定は、本年2017年4月の世界共生学部の誕生と関係している。本学における研究の成果は、これまで、主に本紀要と『外国語学部紀要』の二つによって外部に発信してきたが、今回の新学部設置を機に、その一本化をめざすことになった。2017年度以降は、新たな名称と装いのもと、3学部共通の『論集』として再スタートを切る。顧みれば、本紀要は、2005年より図書館ウェブサイト上で公開を開始し、2013年3月からは「竹の庫:学術情報リポジトリ」としてデータベース化を実現した。その結果、今よりもさらに広く社会に向けて実績をアピールできるようになった。しかしながら、科学研究費採択数のデータ等が示すように、本学の研究蓄積はとりわけ量的側面においてあと一步の観を認めなかった。そうした状況の中、新たに設立されたワールドリベラルアーツセンターで、本学の研究ポテンシャルの発掘を主な狙いとした雑誌『Artes MUNDI』を刊行するにいたったわけだが、これはどちらかといえば、教員間の知的交流の場としての色彩がたよく、必ずしも学術研究誌をめざしているわけではない。従って、より本格的な研究発表の場としての「紀要」のもつ意味はいささかも揺るがず、今後のさらなる充実と飛躍が望まれるところである。本学における外国語教育の質と内容は、全国的に見てもかなりのレベルにある。この勢いを研究面にも取り込み、中部東海圏のみならず全国を意識しつつ「外国語学」の中心的拠点の一つとなるべく一丸となってその機運を高めていきたい。最後に、本学の研究レベルの向上に尽力下さった執筆者の方々、また編集その他の実務に携わってこられた諸先生に対し心から御礼を申し上げる。

名古屋外国語大学長  
亀山 郁夫